

マスコミ各位

平成 27 年 5 月 18 日（月）

沖縄県保健医療部健康長寿課 結核感染症班

担 当：平良、山内

電 話：098-866-2209

つつが虫病の発生について

県内宮古保健所管内において、ダニ媒介感染症である「つつが虫病」の患者が発生しました。医療機関及び広く県民への注意喚起のため、情報提供します。

【患者の情報】

宮古保健所管内在住 60 代 男性。 感染源については、現在調査中。

【経過】

4 月 27 日 発病（頭痛、発熱、発疹等）

5 月 7 日 定期外来で医療機関を受診、症状持続のため抗生剤処方。

5 月 11 日 再度医療機関を受診。

発熱（39.6℃）、発疹、リンパ節腫脹、左膝外側に刺し口発見、髄膜炎症状等あり。
入院、治療開始。

5 月 13 日 患者検体（血液、刺し口のかさぶた）を衛生環境研究所へ送付し PCR 検査を実施。

5 月 14 日 検査の結果、血液及びかさぶたで PCR 陽性（つつが虫病の病原体遺伝子検出）

5 月 18 日 現在も入院治療中

【つつが虫病とは】4 類感染症

つつが虫病は、つつが虫病リケッチア (*Orientia tsutsugamushi*) を起因病原体とし、山野に入り病原体を保有するダニ（ツツガムシ）に刺されて感染する。ヒト→ヒト感染はない。

臨床症状：発熱（38℃以上）、リンパ節腫脹、発疹、刺し口。

潜伏期：5～14 日

治療：テトラサイクリン系の抗生物質等による治療。一般に予後良好。

発生状況：我が国では北海道を除く全都府県から患者が報告され、ここ数年は年間 300～400 人の患者が毎年報告されている。

【予防】：山野に入る際には、肌の露出を少なくし、防虫スプレーを適宜使用する。むやみに地面に腰を下ろしたり寝転んだりしない。山林や野原に立ち入って 1～2 週間後発疹や発熱の症状が現れたら、すぐに医療機関で受診する。

【参考】 県内のダニ媒介感染症発生状況

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	合計
つつが虫病	1		1	2		1	2	7
日本紅斑熱			1	1	1			3

※2008年の「つつが虫病」1例は県内初報告例

※2010年の「日本紅斑熱」1例は県内初報告例

参考 URL (沖縄県感染症情報センターHP より)

<http://www.idsc-okinawa.jp/hasedokokiji/2012tutugamusi.pdf>